

建設現場向け 熱中症対策クラウド

ATSUMIRU アツミル

センサーとスマホで暑さ指数と作業員の体調をつなぎ、警報・対処・記録を一気通貫で行うクラウドサービス。2025年6月の労働安全衛生規則改正にも対応します。

「見えない」では、もう守れない。

2025年6月、労働安全衛生規則が改正され、事業者が熱中症の早期発見体制の整備と重篤化防止措置が義務として課されました。暑さ指数の把握、有症者の早期発見、作業からの離脱、身体冷却、必要に応じた医療機関への搬送体制 — これらの実施と記録が、規模を問わずすべての事業者にあります。

けれど現場の実態は、専用の暑さ指数計を持つ現場は少なく、多くは作業員の自己申告に頼っています。体力のある大手ゼネコンはシステム化を進めていますが、中小の仮設・建設会社ほど対応が後手に回りやすいのが現状です。

01

気づけない

現場ごとに暑さ指数がバラバラ、あるいは計測されていない。危険域に入ってから初めて気づく。

02

記録できない

対応履歴は紙やメモに散らばり、集計に時間がかかる。労基署対応のたびに現場へ問い合わせが発生する。

03

証明できない

元請けとして、下請けを含めた現場全体で対策を実施している証拠を、求められてもすぐに示せない。

暑さ指数（WBGT）早見表

21℃未満	■ ほぼ安全	通常の作業は問題なし
21～25℃	■ 注意	積極的な水分・塩分補給を呼びかけ
25～28℃	■ 警戒	こまめな休憩を指示
28～31℃	■ 厳重警戒	激しい作業は中止を検討
31℃以上	■ 危険	原則、作業中止

計測、警報、対処、記録を、ひとつに。

現場に置いたセンサーが暑さ指数を計測し、しきい値を超えると現場責任者と作業員のスマホへ自動で警報。作業員は出勤時に体調をワンタップで申告し、対応も記録に残ります。すべての現場の状況が一つのダッシュボードに集まり、労基署提出用の記録もそのまま書類になります。



3段階

警戒・嚴重警戒・危険のアラート

1画面

複数現場を横断管理

自動

提出書類の生成

項目	従来のやり方	ATSUMIRUの場合
暑さ指数の把握	専用計器がなく、体感頼み	センサーで現場ごとに常時計測
有症者の早期発見	自己申告任せで発見が遅れがち	出勤時チェックインでリスクを事前に可視化
対応記録	紙やメモに散在	ワンタップで記録、自動で集計
提出書類の作成	現場へ都度問い合わせ、手作業で作成	記録からそのまま自動生成

主要機能

現場責任者・作業員・本社管理部門、それぞれの立場で必要な機能を一つのサービスに統合しています。

● 暑さ指数モニタリング

現場に設置したセンサーが暑さ指数を常時計測。複数現場の状況を本社と現場責任者が同時に把握できます。

現場責任者・本社向け

● 段階アラート通知

警戒・厳重警戒・危険の三段階でしきい値超過を自動通知。次に取り組むべき対応まで提示します。

現場責任者・作業員向け

● 体調チェックイン

出勤時にスマホで簡易な体調申告。水分摂取や前日の睡眠も記録し、リスクの高い人を可視化します。

作業員向け

● 対応記録の自動化

誰が・いつ・どんな症状で・どう対処したかをワンタップで記録。労基署提出用の書類を自動生成します。

現場責任者向け

● 複数現場ダッシュボード

すべての現場の暑さ指数とアラート状況、対応履歴を一画面で管理。安全大会の資料づくりも短縮します。

本社向け

● 自社製品との連携

クールダウンボックスとウォーターサーバーラックの稼働状況もセンサーで拾い、対策の実効性まで見える化します。

現場責任者・本社向け

実際の画面

現場責任者・本社向けのダッシュボードと、作業員向けの体調チェックイン画面です。デモ環境ではダミーの数値でリアルタイムに動作します。

ATSUMIRU 体調チェックイン（作業員向け）

製品情報へダッシュボードへ

お名前

例) 山田太郎

現場

吉川 本社現場（埼玉県吉川市）

今日の体調

良好やや不調不調

前日の睡眠

十分やや不足

今朝の水分摂取

十分やや不足

チェックインする

作業員向け 体調チェックイン画面



現場責任者・本社向け ダッシュボード

PC / スマホ

本社は大きな画面で、現場はスマホで確認

ワンタップ

チェックインも対応記録も数秒で完了

即時反映

センサー値は数秒でダッシュボードに反映

※ 上記はデモ環境のスクリーンショットです。数値はシミュレーションで、実センサー接続時は同じ仕組みに実測値がそのまま反映されます。

鎚矢がつくる理由

建設現場向けの労務管理システムは複数ありますが、暑さ対策に特化し、対処するための実機まで自社で持つ会社はほとんどありません。

01 クールダウンボックス・ウォーターサーバーラックで、住友林業様の施工現場への本格導入実績

02 2025年6月27日付 日刊工業新聞に取り組みが掲載

03 1981年創業、45年以上にわたり仮設資材で現場に寄り添ってきた設計力 — 電波の悪い現場でも使える

04 計測するだけの会社ではなく、冷やす実機を持つ会社が対策の実効性まで見える化

「建設現場向けの労務管理システムは複数ありますが、暑さ対策に特化し、対処するための実機まで自社で持つ会社はほとんどありません。計測する機器を持つだけの会社ではなく、冷やす機器を持つ会社が、対策の実効性まで見える化する。」

株式会社鎚矢 ものづくり事業部

1981年

創業、45年以上の現場実績

実機保有

計測だけでなく冷却まで自社で提供

掲載実績

日刊工業新聞 2025年6月27日付

料金モデルと導入までの流れ

現場数

×

月額利用料

+

センサー機器（レンタル／販売）

既存のクールダウンボックス・ウォーターサーバーラックの契約とバンドル可能。導入のハードルを下げ、既存顧客へのクロスセルにもつなげられます。

対象	内容
一次ターゲット	同業の仮設・足場工事会社。まず鎗矢自身の現場で実証し、その実績を横展開する。
二次ターゲット	中堅ゼネコン・ハウスメーカーの現場管理部門。元請けとして下請けを含めた現場全体を管理したい層。
将来ターゲット	造園・倉庫・農業法人・屋外イベント運営など、建設業以外の屋外作業を持つ業種。

ROADMAP — 導入までの4段階

PHASE 01 自社実証

既存機材への後付け

クールダウンボックスにセンサーを後付けし、自社現場のみで試験運用。

PHASE 02 プロトタイプ開発

機能実装と試験導入

アラート・チェックイン・記録機能を実装し、協力会社に試験導入。

PHASE 03 販売開始

同業他社への展開

建設業労働災害防止協会等のネットワークで同業他社へ販売開始。

PHASE 04 業種拡張

建設業以外への展開

屋外作業を持つ他業種へ展開し、機能も拡張。

まずは1現場、1台のセンサーから。

実証導入のご相談、お見積り、資料に関するご質問など、まずはお気軽
にお問い合わせください。

株式会社鎗矢

ものづくり事業部

所在地 〒342-0001 埼玉県吉川市上内川389-1

TEL（本社） 048-992-1155

TEL（販売課） 048-940-7257